田んぼに浮かび上がる緑のアート

市では、市民協働のまちづくりを推進するため、市の魅力などを市民目線で発信してもらう、市民特派員とともに、広報紙の取材・編集を行っています。

今回は、「田んぼアート」の様子をご紹介します。

市民特派員
山田亜希（やまだあき）さん

今年の絵柄は「平和なみらい」

つくばみらい市下小目の一画にて５月31日、田植えイベントの「田んぼアート」が行われました。

今年で12回目となる「田んぼアート」。NPO法人古瀬の自然と文化を守る会（古瀬の会）の主催で、谷和原三万石を象徴するような約50㌃の広大な田んぼに、「紫稲」「黄稲」「白稲」「赤米」など葉の色の違う稲でデザインした絵を作り出します。同会は、つくばみらい市の農村地域と都市住民の方との交流を行っており、稲作、畑作、森林作業などの農村体験活動には、地域の都市住民をはじめ、東京都内からも多くの方が訪れます。

雨の予報が出ていた当日は、日差しが眩しいくらいの真夏日でした。田植えのレクチャーを受け、コツや注意点の説明の後、担当する絵の場所を決め、大人43人、子供25人の参加者が田植えを楽しみました。

芦澤潤（あしざわじゅん）さん（東京都）は「今回で３～４回目の参加。秋の収穫祭も毎年来ている。子どもたちにもいい経験」と話してくれました。新井治（あらいおさむ）さん（東京都）は「毎年参加している。頂いたお米も美味しい」と話してくれました。田植えを終えた子どもたちは、泥遊びや虫籠を持ち、田んぼ遊びも堪能できた様子。

同会会長の寺田さんは、「苗の種も、収穫したものからとって使っている。下絵も自分たちで測量し作っている。最近は田んぼアートが流行り、行政も参加して観光化しているところもあるが、ここの田んぼアートは、すべて自分たちの手作り、手作業で行うという原点を大切にしている。これからも自然環境の素晴らしさを教えながら、地域活性化に努力したい」と笑顔で話してくれました。

見ごろは８月上旬くらいまで。つくばエクスプレスの上り線、みらい平から守谷に向かう途中左手に、色彩豊かな稲穂によるアートを見ることができます。来年は、田んぼアートの『言葉』も募集するとのこと。古瀬の会の皆さんのまっすぐな信念が、毎年のリピーター、ファンを虜にしているのだと思いました。

◇編集・発行　茨城県つくばみらい市政策秘書課　〒300－2395 茨城県つくばみらい市福田195番地　☎0297－58－2111　FAX0297－58－5611
メールアドレス：infot@city.tsukubamirai.lg.jp　ホームページアドレス：http://www.city.tsukubamirai.lg.jp/
◇発行日　平成27年８月１日㈯　～「広報つくばみらい」は毎月１日発行です～